

Market Flash

発表日: 2019年5月23日(木)

「忍耐」の一言に尽きる(FOMC議事要旨) 新規輸出受注が停滞(製造業PMI)

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

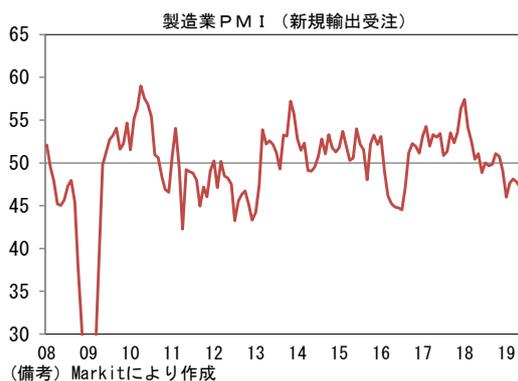
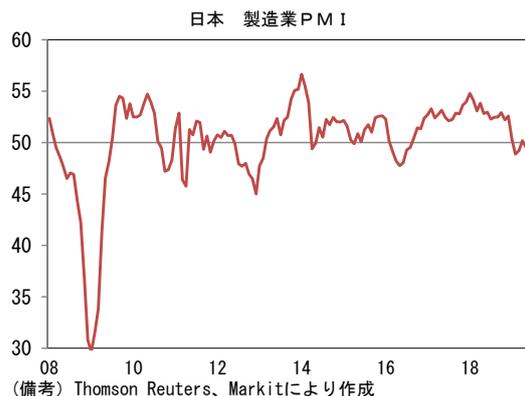
- ・ 日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・ USD/JPYは米利下げ観測が浮上する中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・ 日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・ FEDは利上げを停止し、2019年は様子見を続けるだろう。

< # FOMC議事要旨 # F F金利年内据え置き >

- ・ 4月31日-5月1日に開催されたFOMC議事要旨が公表された。メンバーの総意として、経済・物価のダウンスайдリスクを警戒しつつも、利下げを真剣に検討する段階には至っていないことが確認された。FOMC開催時から議事要旨公表にかけて米中貿易戦争が激化したことを割り引く必要があるものの、F F金利年内据え置きという筆者の見解に変更を迫るものではない。
- ・ 議事要旨では「メンバーらは、世界経済や金融情勢が改善し続けた場合でも、忍耐強い姿勢が当面適切となるとみている」との基本見解が示された。景気見通しは、数名(some)の参加者が経済のダウンスайдリスクが低減したとする反面、大半(most)の参加者がダウンスайдリスクを注視する必要があるとした。物価については、数名(some)がダウンスайдリスクの増幅を警戒した反面、多くの参加者(a number of)はダラス連銀が作成する刈り込み平均でみた場合、2%程度で推移していると指摘。足もとの減速は特殊要因による一時的なものであるとの見方が優勢であった。
- ・ F F金利先物は、年内利下げ開始および2020年末までに約2回の利下げを織り込むなど、FEDがハト派に急旋回することを前提にしている。しかしながら、議事要旨やパウエル議長の発言等、公式見解に近い情報発信から読み取れるのは「忍耐強い姿勢を維持することで十分」という姿である。18年末のような金融市場の突発的混乱の発生を前提に置かない限り、年内利下げは考えにくい。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・ 日本株は欧米株安に追随して安寄り後、もみ合い(10:00)。
- ・ 5月の日本の製造業PMIは49.6へと4月から0.6pt低下。新規受注(48.3→48.5)は小幅ながら持ち直したものの、生産(48.8→48.4)と雇用(52.8→51.4)が悪化。10連休に伴う季節パターンの変動もあり、数値は幅を持って解釈する必要があるが、それでも5月の49.6という数値は1-3月期平均(49.5)に概ね等しく、物足りなさを覚える。先行きを読む上で有用な新規受注・在庫バランスは僅かに持ち直したものの、一方で新規輸出受注は47.1ptと低水準にあり、輸出主導の回復シナリオが描きにくい状況にある。



【欧米経済指標他】

- ・欧米で重要な経済指標の公表はなかった。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は下落。米政府が中国企業5社について米国からの技術移転を禁止するとの報道が嫌気され、売り優勢。WT I原油は61.42ドル（▲1.71ドル）。
- ・前日のG10通貨はGBPの弱さがやや目立った反面、その他通貨に大きな動きはみられなかった。USD/JPYは米長期金利の低下を横目に110前半へと下落。EUR/USDは1.15半ばで一進一退。
- ・前日の米10年金利は2.382%（▲4.4bp）で引け。メイ首相の退任を意識した英国債金利低下に追随。一方でFOMC議事用に対する反応は限定的。欧州債市場はドイツ（▲0.086%、▲2.3bp）、フランス、イタリア、スペインが何れも金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。